

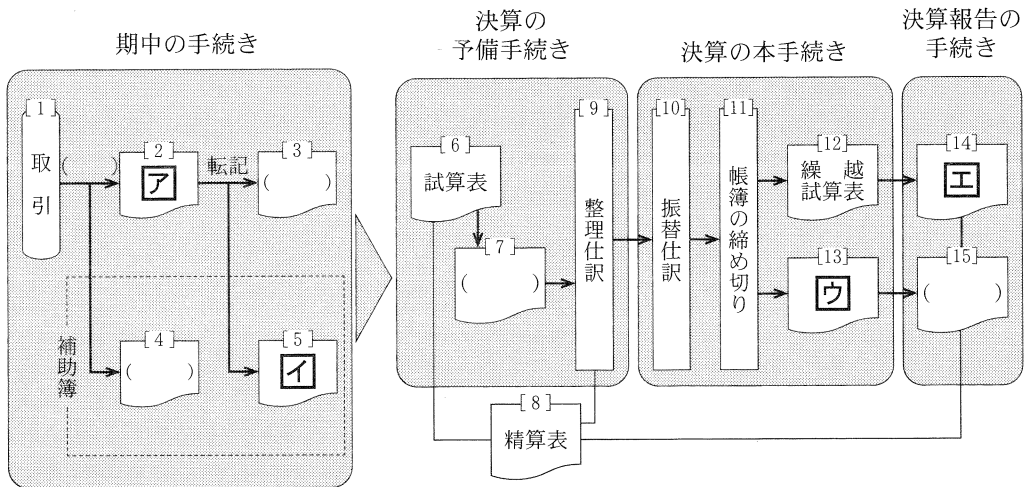
簿記・会計

(全問必答)

第1問 次の問い(A・B)に答えよ。〔解答記号 **ア** ~ **ホ** 〕(配点 40)

A 次の図1は簿記一巡の手続きを示したものである。この図にもとづいて、4ページから7ページの問い(問1~7)に答えよ。なお、()は各自で考えること。

図1 簿記一巡の手続き



問1 図1の空欄 **ア** ~ **エ** に当てはまるものを、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

ア ~ **エ** の解答群

① 損益計算書	② 仕訳帳	③ 貸借対照表
④ 総勘定元帳	⑤ 補助記入帳	⑥ 棚卸表
⑦ 損益勘定	⑧ 特殊仕訳帳	⑨ 資本金勘定
⑩ 補助元帳		

問 2 図 1 [1] の取引に当てはまらないものを、次の解答群のうちから一つ選べ。 **オ**

オ の解答群

- ① 定額資金前渡法により、庶務係に小切手を振り出して前渡しした。
- ② 来月から従業員を雇用することにした。
- ③ 出張中の従業員から当座預金に入金があったが、その内容が不明である。
- ④ 商品が盗難にあった。

問 3 図 1 の補助簿のうち、[4] に含まれるものを、次の解答群のうちから一つ選べ。 **カ**

カ の解答群

- ① 売掛金元帳
- ② 商品有高帳
- ③ 固定資産台帳
- ④ 小口現金出納帳

問 4 図 1 [6] の試算表は、[2] から [3] への転記が正確に行われたかどうかを確かめることをおもな目的として作成される。試算表で発見できない誤りを、次の解答群のうちから一つ選べ。 **キ**

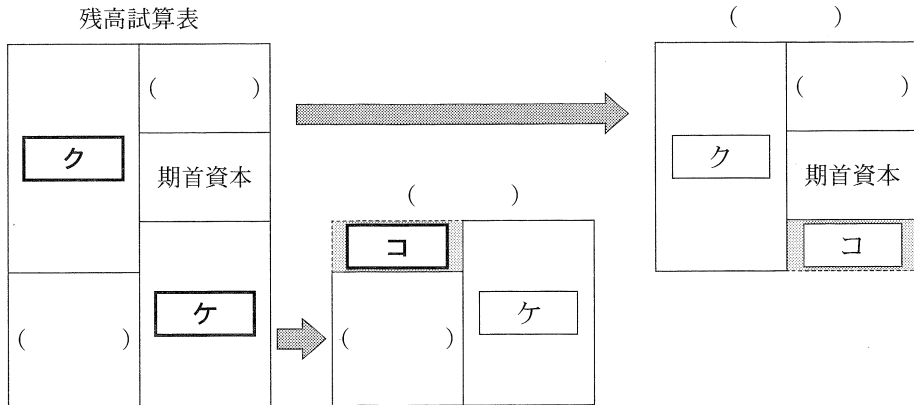
キ の解答群

- ① 貸借いずれか一方の転記をしていない場合
- ② 一組の仕訳を、科目・金額ともに借方のみに転記した場合
- ③ 貸借いずれか一方の金額の桁を間違えて転記した場合
- ④ 一組の仕訳を、科目・金額ともに貸借逆に転記した場合

簿記・会計

問 5 次の図 2 は、図 1 [8] の精算表のうち、6 桁精算表のしくみを表したものである。空欄 **ク** ~ **コ** に当てはまるものを、下の解答群のうちから一つずつ選べ。

図 2 精算表のしくみ



- ク** ~ **コ** の解答群
- | | | |
|---------|--------|--------|
| ① 期首資産 | ④ 期末資産 | ⑦ 期首負債 |
| ② 期末負債 | ⑤ 費用 | ⑧ 収益 |
| ③ 当期純利益 | ⑥ 期末資本 | |

問 6 図 1 [9] の整理仕訳に含まれないものを、次の解答群のうちから一つ選べ。**サ**

- サ** の解答群
- | | |
|-------------|-------------|
| ① 固定資産の減価償却 | ④ 有価証券の評価替え |
| ② 貸倒損失の記帳 | ⑤ 費用・収益の見越し |

問 7 図 1 [10]・[11]では, [3]の締め切りが行われる。その手続きを正しい順序にならべた場合, 次の空欄 ~ に当てはまるものを, 下の解答群のうちから一つずつ選べ。

→ → → ()

~ の解答群

- ④ 収益・費用の各勘定と損益勘定を締め切る。
- ① 収益・費用の各勘定残高を損益勘定に振り替える。
- ② 資産・負債の各勘定と資本金勘定を締め切る。
- ③ 当期純損益を資本金勘定に振り替える。

簿記・会計

B 8ページから10ページの問い(問1・問2)に答えよ。ただし、金額の単位は、別途指示してある箇所を除き、すべて万円である。なお、()は各自で考えること。

問1 以下の(1)~(5)は北海道物産株式会社(決算は年1回、決算日は3月31日)の平成×5年度中の取引とその仕訳である。空欄 ~ , に当てはまる勘定科目を、9ページの解答群のうちから一つずつ選べ。また、空欄 ~ , , ・ に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

(1) 期首に、額面総額¥200の社債を、@¥95(単位:円)、利率年4%、利払い年1回(3月末日)、償還期限5年の条件で発行し、全額の払い込みを受け、払込金は当座預金とした。また、社債の発行のために要した諸費用¥12(当期に全額を費用処理する)を小切手を振り出して支払った。

(借) 当座預金 (貸) () ()
 (借) 12 (貸) 当座預金 12

(2) かねて割引発行していた額面総額¥300の社債を、@¥98(単位:円)で小切手を振り出して買入償還した。ただし、買入償還した社債の帳簿価額は¥298である。

(借) () (貸) 当座預金 ()
 ()

(3) 法人税等の中間申告を行って、前年度の法人税額¥84の2分の1を現金で納付した。

(借) 42 (貸) 現金 42

簿記・会計

(4) 決算にあたり、(1)で発行した社債の帳簿価額を修正した。なお、額面金額と払込金額との差額については、償還期限までの各会計期間にわたって均等額を帳簿価額に加算している。

(借) (貸) () ()

(5) 決算にあたり、当期の法人税等を計上した。なお、当期のすべての税金は次のとおりであった。

固定資産税 ￥ 5 印紙税 ￥ 2 道府県民税 ￥ 20
 市町村民税 ￥ 15 事業税 ￥ 25 法人税 ￥ 20

(借) () (貸) 42
 ()

~ , の解答群

- | | | |
|-----------|-----------|----------|
| ㉠ 社債利息 | ① 社債償還益 | ㉡ 未払社債 |
| ㉢ 社債 | ④ 社債償還損 | ㉤ 未払法人税等 |
| ㉥ 株式交付費 | ⑦ 社債発行費 | ㉧ 法人税等 |
| ㉨ 有価証券評価益 | ㉠ 仮払法人税等 | ㉢ 租税公課 |
| ㉣ 引出金 | ㉡ 有価証券売却損 | |

簿記・会計

問 2 青森商事株式会社(決算は年1回, 決算日は3月31日)に関する

資料1・資料2にもとづいて, 空欄 **ヒ**・**フ** に当てはまる勘定科目を, 下の解答群のうちから一つずつ選べ。また, 空欄 **ヘ**・**ホ** に当てはまる数字を, 解答用紙の解答欄にマークせよ。

資料1 平成×5年度中の取引の一部

6月28日: 剰余金の配当および処分について, 株主総会で配当金¥90を支払うことを決議し, 会社法が規定する金額を利益準備金として積み立てた。

7月1日: 配当金¥90を, 小切手を振り出して支払った。

10月1日: 新たに株式30株を1株につき¥2で発行し, 全額の引き受け, 払い込みを受け, 払込金を当座預金とした。なお, 払込金額のうち資本金に計上しない金額は, 例外として認められる最高限度額とした。

資料2 平成×6年3月31日における総勘定元帳の一部

ヒ		資 本 金					
7/1 当座預金	90	6/28 フ	90	3/31 次期繰越	()	4/1 前期繰越	700
	<u>90</u>		<u>90</u>		()	10/1 当座預金	ヘ 0
					<u>()</u>		<u>()</u>
資本準備金				利益準備金			
3/31 次期繰越	()	4/1 前期繰越	150	3/31 次期繰越	()	4/1 前期繰越	20
	()	10/1 当座預金	()		()	6/28 フ	ホ
	<u>()</u>		<u>()</u>		<u>()</u>		<u>()</u>

(注) 太字は赤字記入を意味する。

ヒ・**フ** の解答群

- | | | |
|-----------|---------|-----------|
| ① 別途積立金 | ④ 当座預金 | ② 資本金 |
| ③ 繰越利益剰余金 | ⑤ 未払配当金 | ⑥ 配当平均積立金 |

(下書き用紙)

簿記・会計の試験問題は次に続く。

簿記・会計

第2問 個人企業である札幌商店(決算は年1回、決算日は12月31日)は、5伝票制(商品売買取引はすべていったん掛け取引として処理する)を採用している。

資料1は、平成×5年4月1日から7日までのすべての取引、資料2は、同期間に起票された伝票(略式)の一部、資料3は、同期間の伝票を分類・集計して作成した仕訳集計表である。

これらの資料にもとづいて、14ページから15ページの問い(問1～3)に答えよ。ただし、金額の単位はすべて千円であり、当座預金の前月末繰越高は¥300である。なお、()は各自で考えること。〔解答記号 **ア** ~ **ニ**〕(配点 30)

資料1 平成×5年4月1日から7日までのすべての取引

- ① 小切手¥50を振り出して、現金を引き出した。
- ② 岩手商店に商品¥380を売り渡し、代金は掛けとした。
- ③ 岩手商店に売り渡した商品に汚損等があり、¥20の値引きを行った。
- ④ 福島商店に商品¥490を売り渡し、代金のうち¥140は現金で受け取り、残額は掛けとした。
- ⑤ 山形商店から商品¥400を仕入れ、代金のうち¥250は福島商店振り出し、当店あての約束手形を裏書きして譲渡し、残額は掛けとした。なお、保証債務は考慮しなくてよい。
- ⑥ 新潟商店に商品¥500を注文していたが、同店が取り組んだ荷為替¥400を取引銀行から呈示されたので、これを引き受け、船荷証券を受け取った。なお、残額は掛けとした。
- ⑦ 秋田商店から商品¥100の注文を受け、内金として現金¥20を受け取った。
- ⑧ 宮城商店から商品¥300を仕入れ、代金のうち¥200は得意先岩手商店を名あて人とする為替手形を振り出し、同店の引き受けを得て、宮城商店に引き渡した。なお、残額は掛けとした。
- ⑨ 栃木商店に商品¥600を売り渡し、代金のうち¥300は当座預金に振り込まれ、残額は掛けとした。
- ⑩ 新潟商店から受け取った⑥の船荷証券と引き換えに、商品を引き取った。なお、商品引き取りにともなう諸費用¥20は現金で支払った。ただし、仕入諸掛については、出金伝票または振替伝票に記入している。

資料2 平成×5年4月1日から7日までに起票された伝票(略式)の一部

(伝票の前の丸番号は資料1の各取引に対応している)

①

ア

() 50

②

イ

() 380

⑤

()
山形商店 ()

<u>振替伝票(借方)</u>
() ()

<u>振替伝票(貸方)</u>
ウ ()

⑥

<u>振替伝票(借方)</u>
() 400

<u>振替伝票(貸方)</u>
エ 400

<u>振替伝票(借方)</u>
() 100

<u>振替伝票(貸方)</u>
() 100

⑦

()
オ ()

⑧

()
宮城商店 ()

<u>振替伝票(借方)</u>
() ()

<u>振替伝票(貸方)</u>
カ ()

⑩

()
新潟商店 500

<u>振替伝票(借方)</u>
() ()

<u>振替伝票(貸方)</u>
キ ()

()
() ()

(注) 入金・出金・振替伝票における商店名は省略してある。

簿記・会計

資料3 平成×5年4月1日から7日までの仕訳集計表

仕 訳 集 計 表				
平成×5年4月7日				
借 方	元 丁	勘 定 科 目	元 丁	貸 方
()	〔 〕	現 金	〔 〕	〔 チ 〕 0
〔 ク 〕 〔 ケ 〕 0	省	当 座 預 金	省	()
〔 コ 〕 〔 サ 〕 〔 シ 〕 0		〔 ウ 〕		()
()	略	売 掛 金	略	()
()		〔 キ 〕		()
〔 ス 〕 0		〔 エ 〕		()
〔 セ 〕 〔 ソ 〕 〔 タ 〕 0		買 掛 金		〔 ツ 〕 〔 テ 〕 〔 ト 〕 0
()	〔 オ 〕	略	20	
()	〔 〕	売 上	〔 〕	()
()	〔 〕	仕 入	〔 〕	()
()	〔 〕			()

問 1 資料2 の空欄〔ア〕～〔キ〕に当てはまるものを、次のそれぞれの解答群のうちから一つずつ選べ。

〔ア〕・〔イ〕の解答群

① 入金伝票	④ 出金伝票
② 仕入伝票	③ 売上伝票

〔ウ〕～〔キ〕の解答群

① 売掛金	④ 買掛金	⑦ 未収金
② 未払金	⑤ 前払金	⑧ 前受金
③ 受取手形	⑥ 支払手形	⑨ 仕入
④ 売 上	⑦ 未着商品	⑩ 積送品

問 2 資料 3 の空欄 **ク** ~ **ト** に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 3 資料 1 の④の取引を 3 伝票制にもとづき起票する場合には、次の二つの起票方法が考えられる。この場合、次の空欄 **ナ** ・ **ニ** に当てはまる勘定科目を、下の解答群のうちから一つずつ選べ。なお、各伝票における商店名は省略してある。

方法 1

()	<u>振替伝票(借方)</u>	<u>振替伝票(貸方)</u>
ナ 140	() 490	() 490

方法 2

()	<u>振替伝票(借方)</u>	<u>振替伝票(貸方)</u>
ニ 140	() 350	() 350

ナ ・ **ニ** の解答群

- | | |
|-------|------|
| ① 売掛金 | ① 現金 |
| ② 未収金 | ③ 売上 |

簿記・会計

第3問 個人企業である愛媛商店(決算は年1回, 決算日は12月31日)に関する

資料1 ~ 資料4 にもとづいて, 空欄 ア ~ ナ, ヌ ~ ホ に当てはまる数字を, 解答用紙の解答欄にマークせよ。また, 空欄 ニ に当てはまるものを, 19 ページの解答群のうちから一つ選べ。

ただし, 期中の取引はすべて適正に行われており, 当期に資本の追加元入れは行われていない。なお, 金額の単位はすべて千円である。また, () は各自で考えること。〔解答記号 ア ~ ホ 〕(配点 30)

資料1 平成×5年12月31日の決算整理前残高試算表

残高試算表
平成×5年12月31日

借方	元 丁	勘定科目	貸方
140	() 省	現金	
25		当座預金	
50		受取手形	
150		売掛金	
()		貸倒引当金	1
136		有価証券	
400		繰越商品	
()		貸付金	
()		備品減価償却累計額	()
()		建物減価償却累計額	()
	略	支払手形	23
		買掛金	124
		資本金	3,140
24		引出金	
		売上	3,754
		受取地代	80
		受取利息	18
2,452		仕入	
360		給料	
60		保険料	
43	消耗品		
50	雑費		
()			()

資料 2 平成×5年12月中のすべての商品有高帳・備品台帳・建物台帳

商品有高帳

(先入先出法) 品名 A商品 (単位:個)

平成×5年	摘要	受入			払出			残高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
12	1 前月繰越	16	4	64				16	4	64
	6 仕入	10	5	50				{ () () ()		
	12 売上				{ () () ()			{ () () ()		
	23 仕入	10	6	60				6 ()		㊦
	31 次月繰越				{ () () ()			{ () () ()		
		()		()	()		()			

(注) 太字は赤字記入を意味する。

商品有高帳

(移動平均法) 品名 B商品 (単位:個)

平成×5年	摘要	受入			払出			残高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
12	1 前月繰越	5	6	30				5	6	30
	8 仕入	10	9	90				() () ()		
	19 売上				10	()	()	() () ()		
	31 次月繰越				()	㊦	()			
		()		()	()		()			

(注) 太字は赤字記入を意味する。

備品台帳

所在地	(省略)	耐用年数	9年
用途	事務用	償却方法	定率法
登録番号	1234	償却率	0.2

年	月	日	摘要	取得原価	減価償却費	現在高	備考
平成×4	1	1	買入れ	900		900	
	12	31	減価償却費		180	720	

建物台帳

所在地	(省略)	耐用年数	25年
用途	営業用	残存価額	取得原価の10%
面積	(省略)	償却方法	定額法

年	月	日	摘要	取得原価	減価償却費	現在高	備考
平成×3	1	1	買入れ	2,250			
	"	"	買入手数料	250		()	
	12	31	減価償却費		()	()	
平成×4	12	31	減価償却費		()	()	

簿記・会計

資料 3 平成×5年12月31日における棚卸表

棚 卸 表
平成×5年12月31日

勘定科目	摘 要	内 訳	金 額
繰越商品	A 商品 ()個 @¥()	()	130
	10 個 @¥ 工	()	
	B 商品 ()個 @¥()	()	
受取手形	期末残高	()	()
	貸倒見積額 期末残高の2%	()	
売掛金	期末残高	()	()
	貸倒見積額 期末残高の2%	()	
備 品	帳簿価額	()	()
	減価償却費	オ カ キ	
建 物	帳簿価額	()	()
	減価償却費	ク ケ	
有価証券	帳簿価額 S社株式7株 @¥30 時価 @¥34		()
()	平成×6年1月から8か月分の保険料		()
()	貸付金¥400に対する、まだ受け取っていない7か月分の利息(年利3%)		()
()	平成×6年1月から4か月分の地代		()
消耗品	未使用額		()
資本金	期首資本金	()	()
	引出金	24	

(注) 貸倒引当金の設定は差額補充法による。また、保険料および地代の月額は昨年から変わっていない。

資料4 平成×5年12月31日における損益計算書および貸借対照表

損益計算書

愛媛商店 平成×5年1月1日から平成×5年12月31日まで

費用	金額	収益	金額
売上原価	2, □□□	売上高	3,754
給料	360	受取地代	()
保険料	□□	受取利息	□□
貸倒引当金繰入	□	有価証券評価益	□□
減価償却費	()		
消耗品費	□□		
雑費	50		
()	689		
	()		()

貸借対照表

愛媛商店 平成×5年12月31日

資産	金額	負債および純資産	金額
現金	140	支払手形	23
当座預金	25	買掛金	124
受取手形 ()	()	前受地代	□□
貸倒引当金 ()	()	資本金	3, □□□
売掛金 ()	()	()	()
貸倒引当金 ()	()		
有価証券	()		
商品	()		
貸付金	400		
□□	24		
未収利息	()		
消耗品	6		
備品	□□□		
減価償却累計額	()		
建物	()		
減価償却累計額	()		
	()		()

□□の解答群

- ① 前払利息 ② 前払保険料 ③ 未収地代 ④ 未払保険料

簿記・会計

(下書き用紙)

補 足 説 明

数学②（別冊）「簿記・会計」

12 ページ 第2問 資料1 ③の文の末尾に次の文を加える。

「なお、値引額は売掛金から差し引くことにした。」